

The 44th Annual Meeting of the Hokuriku society of Obstetrics and Gynecology

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/46697

『学会開催報告』

第44回北陸産科婦人科学会開催報告

The 44th Annual Meeting of the Hokuriku society of Obstetrics and Gynecology

金沢大学医薬保健研究域医学系産科婦人科学
藤原 浩

第44回北陸産科婦人科学会は、2016年5月21日(土)～5月22日(日)、藤原浩(金沢大学医薬保健研究域医学系産科婦人科学教授、石川産科婦人科学会会長)を会長として金沢市文化ホールをメイン会場として、他、石川県医師会館、ホテル金沢、金沢ニューグランドホテルで開催されました。

5月21日(土)は学生・初期研修医対象のリクルートプログラムとしてPlus One Projectが北陸四県から42名の参加者を集めて石川県医師会館で行われました。教室員を含む北陸四県の産婦人科医がインストラクターとして、分娩、開腹手術、腹腔鏡手術などのブースに分かれてハンズオンセミナー形式で学生・初期研修医に産婦人科の素晴らしさ、面白さを教えるイベントで、和気藹々とした空気のもと充実したセミナーが催されました。産婦人科医の不足は北陸四県でも大きな問題となっていて、このプログラムが少しでも産婦人科を志すきっかけになってくれることを願います。

同日夕刻にはホテル金沢にてイブニングセミナーが新設された東北医科薬科大学産婦人科教授の渡部洋先生を迎えて「遺伝性卵巣癌の病態と臨床応用」と題して行われました。遺伝性卵巣癌は近年産婦人科領域では非常に大きな問題になっており、その最新の知見に触れることができたのは学会員一同大きな成果でした。

5月22日(日)は早朝より金沢ニューグランドホテルで理事会が開催され、今後の運営方針などについて話し合われました。それに引き続いて金沢市文化ホールで学術講演会が開催されました。開会式に引き続いて日本産科婦人科学会指導医講習会(専門医共通講習)として、金沢大学医薬保健研究域医学系細菌学教授の藤永由佳子先生から「細菌毒素の侵入機序」と題して、金沢大学附属病院先端医療開発センター教授の村山敏典先生から「ここがポイント!『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』」と題して講演をして頂きました。藤永先生からはボツリヌス毒素の侵入機序の解明とそれを逆手に取った医学応用の可能性について、村山先生からは臨床医にとっては理解しづらい指針の解釈や今後の方向性などを分かりやすくお話いただきました。いずれも臨床指導医にとって益するところの大きな講演でした。

一般演題の最初のセッションでは一般演題21題の中から選考委員によって選ばれた4題の優秀賞候補演題の発表が行われました。いずれも甲乙つけがたい力作であり

ましたが北陸五大学の代表による選考で、富山大学産科婦人科の吉江正紀先生の「当院で管理したpreterm PROMの臨床検討」が優秀演題に選ばれ、総会の席で表彰されました。その他の一般演題でも特に若手の先生からの意欲的な発表が多く、非常に活発な討論が行われました。

またランチョンセミナーとして富山大学医学薬学研究部産科婦人科学教授齋藤滋先生より更年期障害に対するHRTと漢方製剤の使いわけ」と題した講演が行われ、使い慣れたホルモン製剤と漢方薬の適切な使用について知識の整理ができました。特別講演としては金沢医科大学産科婦人科学教授笹川寿之先生より「HPV感染から発癌までの自然史と子宮頸癌撲滅のための戦略」と題した講演があり、HPV発癌に関しての最新の知見と、今後の対策の戦略が示され、学会員一同にとって大きな刺激となりました。

学会参加人数は例年より多い136人でした。北陸新幹線開業によるアクセス向上も背景にあると思われますが、それ以上に「産婦人科医を増やしたい、若者を教育したい」という北陸四県の産婦人科医の熱気が数字になって現れたものと思います。そういうこともあり、終日熱気あふれる討論が展開されました。教室員が一体となり取り組み、成功裏に終了することができましたことを感謝申し上げます。

